

甲斐市立双葉中学校 自己評価書

令和5年 1月 27日 (金) 作成

校長 「小林 大」 記述者 職名(教務主任)「荻野 秀紀」

学校教育目標 「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」

学校経営方針

- ・全教職員で、生徒・保護者との信頼関係の下に、生徒や地域の実態を考慮して、活力に充ちた特色ある明るい学校づくりに努める。
- ・学校教育目標「主体的に学び、心身ともに健やかで、人間性豊かな生徒の育成」の具現化に向け、特色ある教育課程の編成と実施に努める。
- ・基礎的・基本的内容の指導の徹底と、定着を図る授業づくりを進める。
- ・知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。
- ・自らの個性・特性を理解し、主体的に進路選択ができる能力を育てる。また、発達段階に応じた体系的なキャリア教育の推進を図る。
- ・教育活動全体を通して、知・情・意・体の調和のとれた人間性を養い、道徳的実践力と思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。
- ・健康安全に関する理解を深め、基本的生活習慣を身につけるとともに、文化・スポーツ等に親しみ、自ら心身の健康を高める生徒の育成に努める。
- ・職員の能力・特性を活かし、協働体制による活力ある学校運営を行う。

(1) 学ぶ力を育てる学習指導

- ①各教科等の目標・内容及び相互の関連を踏まえ、指導計画の改善と充実に努め、反復練習や自主学習の取組を通して基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。
- ②話し合い活動や根拠・理由に基づいて自分の考えを発表したり、書いたりする活動を通して、言語活動の充実に努め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ③生徒一人一人の勤労観・職業観を育てることに加え、社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力の育成に努め、主体的・計画的な進路選択ができるように支援する。
- ④学習規律の確立とたゆみない授業改善に努め、確かな学力の定着と向上を図る。
- ⑤問題解決的な学習や啓発的体験活動の充実に図り、将来への夢や希望を抱かせ、自己の生き方を模索できる生徒を育てる。
- ⑥地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携などにより一層努めていく。
- ⑦環境教育をはじめ、福祉・国際理解・情報教育を教育活動の中に位置づけ、推進を図る。

(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成

- ①教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にする教育の充実に図る。
- ②心の糧となる読書活動や文化芸術活動、地域文化にふれる機会を設ける。
- ③保護者、地域の協力を得て、福祉・ボランティア活動等の充実に努めるとともに、他人や仲間の心の痛みがわかり、ともに生きる心を育てる。
- ④地域行事に積極的に参加させ、地域の人々との望ましい人間関係の育成を図る。
- ⑤学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動等を通して、異年齢集団活動を活用し、社会性や協調性等を育てる。

(3) 健康・安全教育の充実

- ①自他の生命を尊重する意識を高めるとともに、安全についての実践的な能力や態度を育てる。
- ②望ましい生活習慣の確立を目指し、健康3原則(栄養、睡眠、運動)の徹底を図る

とともに、食に関する指導の充実を図る。

③地域の活動に積極的に参加するとともに、自ら進んで体力の向上と健康の増進を図る態度を育てる。

④部活動等を通して心身を鍛えるとともに、最後までやりぬく粘り強い生徒を育てる。

⑤登下校の安全確保はもとより、防犯に関する指導の充実を図るとともに、地震・火災などの災害に対する防災教育の充実と、危機管理マニュアルの不断の更新により、安全な学校づくりに取り組む。

(4) 愛情と信頼、生徒理解に基づく生徒指導

①定期的なアンケート調査などを通して生徒個々の実態を把握し、個に応じた指導を組織的・継続的に行うと共に、保護者・関係機関との連携を図る。

②生徒が発する兆候を見逃さないよう、常日頃から情報交換を行い、問題の早期発見・早期対処に心がけ、問題発生時には的確な情報把握と組織的対応に努める。

③校外学習等の機会を生かし、集団生活や体験活動を通して規範意識の醸成を図る。

④生徒が所属感や充実感・成就感を味わえるような学校行事の工夫に努める。

⑤全教育活動を通じて生徒と教師、生徒同士の信頼に基づいた人間関係を築き、深める。

(5) 信頼される学校づくり

①PDCAサイクルを確立し、学校評価等の結果を生かした、教育活動の組織的・継続的な改善に努め、信頼される学校づくりを進める。

②学校評議員制度を活用し、学校経営の客観性向上を図る。

③家庭・地区小学校・地域・関係機関との密接な協力体制の確立と促進に努める。

④各種たより、ホームページを通して積極的な情報発信に努める。

1 全体評価

○今年度も昨年度に続き、AB双方を合わせると90%を超える肯定的評価の項目が多い。

・教師自己評価

「学校教育目標の具現化に向けた協力体制」の項目で昨年に比べ、高い数値がみられた。

Ⅱ. 学校運営でも、「協力体制」や「報告・連絡・相談」でも高い数値が見られ、「チーム双葉中」としての教育活動への取り組みがみられた。新学習指導要領の完全実施の2年目で、校内研やICT、協働的な学びの数値にも改善が見られた。一方で、昨年度に引き続き、感染症の影響もあり、PTA活動の数値は低いままである。また、双葉中の特色である「読書活動」のC評価（ややそう思わない）の数値に課題が見られる。

・生徒アンケート

全体としてAB評価が昨年並みに多く、概ね肯定的な回答である。A評価が低下した項目が多いが、その分、B評価は増えてきている。「学校が楽しいですか」の項目でCD評価の数値が、年々少しずつ上昇している。不登校生徒の増加と関連していることも考えられる。「授業がわかりますか」の項目で国語が数学や英語に比べ、C評価（ややそう思わない）の数値が上昇している。清掃活動や委員会活動には例年と同じようにしっかり取り組んでいると考えている。あいさつの数値はAB評価合わせると、数値の上昇がみられ、双葉中学校の伝統である生徒の活動が定着していることが表れている。

・保護者アンケート

昨年度と比べて、横ばいの項目が多い。概ね、学校の教育活動の一定の理解を得られていると思われるが、数値が少しずつ、低下している項目が多い。コロナ禍3年目なり、全校の保

護者が、コロナ後の入学になった。保護者が学校を訪れる機会が制限されていて、学校の教育活動が保護者に見えづらい面もあると思われる。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	5項目中すべての項目で90%以上のAB評価である。学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている教師が増えてきた。A評価が全体的に5項目中、4項目で数値が上昇している。協力体制では、昨年に比べて、高い数値の上昇が見られている。
改善策	①本年度も、教育活動が変更、短縮など、感染症対策に迫られた1年であった。効率的な会議の運営や精選、簡素化、職員間の協力体制を見極めていく。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。 ②学校教育目標の具現化に向けて、引き続き、協力体制を取りながら、教育活動に取り組んでいく。日々の教育活動を振り返って常に総括を行い、「チーム双葉中」の意識を盤石にしていくために、PDCAサイクルがより緊密なものにして教職員間の情報共有、さまざまな問題や事象への共通認識が確立されるように連絡体制を整えていく。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	8項目中5項目で90%以上のAB評価である。職務について職員一人ひとりが責任感をもって協働体制をとりながら、取り組んでいる。唯一、危機管理マニュアルの理解についてA評価が、数値が低下している。校務支援や働き方改革については数値の改善が見られた。
改善策	①学校の安心・安全や防災や防犯に対する危機管理が叫ばれている。本校でも、危機管理マニュアルの内容を全職員で共有しながら、全職員の研鑽を積んでいきたい。 ②新項目の働き方改革にも力を入れる。早めの退勤、定時退勤日などの取り組みなどを継続していく。効率的な会議の運営や精選、簡素化などにも力を入れて、教育の質の向上を図る。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	7項目中5項目で90%以上のAB評価である。ICTについては校内研などでも、取り組んだこともあり、数値の上昇が見られた。また、新学習指導要領にある協働的な学びの数値も上昇した。 その一方で、「学びの意欲を喚起する授業に取り組んでいる。」の数値に低下が見られたので、来年度の課題となる。新学習指導要領が完全実施され、2年目になる。ICTを取り入れる目的を全職員で共有して、指導と評価の一体化をめざしていきたい。
改善策	①新指導要領の基礎・基本の定着や、指導と評価の一体化について、課題を感じている教職員も多いが、学校体制で取り組んでいく。 ②新学習指導要領が完全実施され、2年目になる。ICTを取り入れる目的を全職員で共有して、学びを喚起する授業をめざしていきたい。また、家庭学習の指導を引き続いて実施していく。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	6項目すべてで90%以上のAB評価である。A評価の数値も6項目すべてで上昇している。不登校や支援の必要な生徒に対して組織的な取り組みの項目の数値が改善された。いじめ・不登校の早期発見、早期対応もある程度達成できている数値である。

改善策	①生徒指導の未然防止や早期発見，対応，また不登校，いじめ，支援に関わる本校のシステムの見直しを一層進めていく。生徒の抱える課題に対して共通認識をもって，組織的かつ迅速，適切な対応ができるようにする。 ②アンテナを高くして情報収集に努めるとともに，保護者や生徒が相談しやすい雰囲気を作っておく。家庭，学校，地域，関係諸機関との連携を緊密にする。
V 地域との連携について	
達成状況	6項目中4項目で90%以上のAB評価である。コロナ禍の学校運営で，学校に招く人材にも制限があり，地域人材等の活用について昨年度よりも低下している。保護者アンケートでは，PTA活動が制限された関係で数値が低下している。
改善策	①来年度も地域人材の活用やPTA活動については制限がつくことが予想されるが，授業参観，学校開放日，PTA行事の方法や日程，内容の工夫を図り，より一層保護者や地域の要望に対して，情報収集に努めていく。 ②学校への理解を深めてもらうために，学校HP，各種通信等による情報発信を今後も進めていきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	4項目中すべての項目で90%以上のAB評価である。昨年から引き続き，コロナ禍の学校生活になったが，生徒の活動（読書，あいさつ，整理整頓）は，ほぼ例年通りにできており，伝統を引き継いでいる。 新項目の「時間を守る」もよい数値になっている。
改善策	①来年度も本年同様，コロナ禍の学校運営が予想される。授業参観や学校開放日について，保護者がより学校を深く知ることができるように内容，方法の調整を図っていく。 ②朝読書，あいさつ，整理整頓といった本校の特色についてもう一度全職員で見直し，来年度につなげる。読書の振興について，朝読書や図書委員会の取り組みを工夫し，読書時間が増やせるように啓発を行っていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	3項目すべてで，AB評価で90%以上であった。昨年と比べても，すべての項目で数値の上昇が見られた。特に「主体的に考え，行動する指導」については上昇した。
改善策	・新指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の理念の軸になる言語活動や話し合い活動なので，来年度以降も職員全体で意識を共有して，取り組みを進めていきたい。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・コロナ禍3年目になり，感染症対策をしながらの学校運営がある程度，形になってきている。制限がある学校生活であるが，この結果を来年度の学校運営につなげたい。
- ・新指導要領の協働的な学びについての数値が上昇している。教職員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいる成果である。
- ・I C Tの数値の改善が見られた。
- ・教職員の自己評価では肯定的評価が多くなっている。特に学校の教育活動計画や教育実践については安定した実践がみられた。本年度以上に，全職員で「チーム双葉中」のもと，「報告，相談，連絡，確認」の体制を確立し，今後の教育活動にあたりたい。
- ・学校の情報発信には一定の成果がみられた。学校行事の変更が来年も予想されるので，継続して，学校メール，ホームページの更新に努めたい。
- ・生徒は学校の特色を理解しており，多くの活動に積極的に取り組んでいる状況がみられる。保護者も多く学校に理解を示している。

〈課 題〉

- ・学校運営については引き続き，「チーム双葉中」のもと，教育活動にあたることをもう一度見直したい。報告・連絡・相談という流れを確立させて，P D C Aサイクルで検証改善していきたい。（この学校評価の結果を活用していく）
- ・来年度も学校行事の変更，P T A活動の制限が予想される。保護者が来校することも制限されるが，積極的にホームページ，安心メールなどの情報発信に努め，保護者からの信頼を得ることにつなげていきたい。
- ・コロナ禍の学校運営に良い意味でも，逆の意味でも慣れてきた。もう一度，感染対策を見直して，徹底していきたい。生徒，保護者からもよい評価が得られるように日常の感染対策の指導に努めていきたい。また，ウィズコロナの社会が進んでいくだろうが，コロナ禍でもできるだけ，学校行事が実施できるように努めていく。
- ・I C T（一人1台タブレット）が導入され，3年目になった。授業でタブレットを使う場面は増加し，リモートの授業は日常的に行われるようになった。来年度もなお一層の研修を実施して，全職員で研鑽を積んでいけるようにする。